

第190回地震予知連絡会重点検討課題について

趣旨説明者 名古屋大学 山岡耕春

タイトル「プレート境界の固着と滑り -わかっていること、まだわからないこと-

第190回地震予知連絡会の重点検討課題では、過去4回にわたって行われてきたプレート境界の固着と滑りに関する検討を振り返り、比較的議論の時間を十分に確保してまとめとしたい。プレート境界に関する話題としては、重点検討課題を開始した2009年度から4回にわたって扱ってきた。第182回(2009.5.15)ではプレート境界深部すべりに係わる諸現象、第183回(2009.8.21)ではプレート境界浅部の固着とすべりのモニタリング、第186回(2010.5.21)ではプレート境界の固着とすべりのシミュレーション-モニタリングによって何が検知されると期待されるのか、第188回(2010.11.19)ではプレート境界すべり現象に関する今後のモニタリング戦略、というテーマで取り上げた。また第189回(2011.2.18)には海域のモニタリング技術の動向と言うテーマに関連した内容が議論された。

次回の重点検討課題では、いままでのプレート境界に関する話題をまとめるため、プレート境界の特徴的な領域や現象を取り上げ、それぞれについて議論を行うことにより、今までにわかったことと、まだわからないことを明らかにすることをめざす。特徴的な領域としては、超低周波地震を発生させる海溝近傍浅部の非地震性すべり域、アスペリティのすべりにより地震を発生させる地震発生域、低周波地震・微動や超低周波地震を発生させる深部の非定常・非地震性すべり域から定常すべり域とする。さらに東北日本と西南日本の特徴も踏まえてまとめをおこなう。

話題提供者

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1) 地震発生と余効すべり | 筑波大 八木 |
| 2) 固着とすべりの測地学的モニタリング | 国土地理院 |
| 3) 固着とすべりの地震学的モニタリング | 防災科学技術研究所 |
| 4) プレート境界すべり域 | |
| 4-1) 日本海溝と相似地震 | 東北大 松澤・内田 |
| 4-2) 南海トラフと非定常滑り | 東大地震研 小原 |
| 4-3) 付加体と超低周波地震 | 海洋研究開発機構 |
| 4-4) ひずみ計と東海地震監視 | 気象庁 |